

1996 年の本。

有隣堂カルチャークラブの大きな特徴は、教室で講師の話をお聴くという従来型のものではなく、ほとんどが体験型であるという点だ。

また、サラリーマンが受講しやすいように、開講日は週末で開講期間は短い。さらに、「女性しか来ない講座」を排していること。

「スクールとかセンターではなくてクラブとしたのも、従来のイメージからの脱却をねらって。『男のクラブ』という意味を込めたんです」（石橋さん）

それでも男女比率は、女性六に男性四だが、女性が圧倒的な多数を占めるほかのカルチャーセンターに比べれば、格段に男性の受講者が多い。

~~~~~

「有隣堂カルチャークラブ」は存在せず、有隣堂戸塚カルチャーセンターとなっている。「1DAY 講座」を見たら、何もなかった。コロナで不振なのだろう。

~~~~~

営業はゲームと同じで陣取り合戦。押したり、引いたり、話題を提供したりと、手をかえ品をかえ、相手を攻める。そのゲームに勝つには、遊び心と人間の幅のようなものが必要だ。

仕事以外に何かしている人は、時間の使い方がうまい。時間を使わなければ、仕事以外に何もできないからだ。

マイクロソフト日本法人社長 成毛真

部下との付き合い方：「部下は部下と思ってつきあう。仕事上では決して友だち感覚では付き合わない。相手の立場には立たない。人柄は無視して、仕事だけで評価する」

・・・

部下と距離をおくのは、部下のためだけではない。親しくなると、

「社長、売り上げが上がってよかったですね」

なんてことを言われかねない。

「そんな言葉は、自分の緊張感を緩ませるだけなんです」

写真の現像・プリント、フィルム販売を専門とする DPE 店がふえている。

自己資金が一〇〇〇万円程度で開店でき、特別な技術はいらない。中高年が第二の人生をかけてオープンするケースが少なくないそうである。

「脱サラではじめる人が多いですね。リストラ組も多い」

1996 年頃の話。プリンター普及で DPE 店は激減。商売は外的変化の影響をもろに受ける。

慶応義塾大学医学部放射線科講師の近藤誠さん（四八歳）

がん検診は百害あって一利なし。がんほどつき合いやすい病気はない。できるものならば、がんで死にたい。がんと闘ってはいけない。がんの苦しみのほとんどは医師の治療がもたらしている……。

「どう考えても科学的ではないことを平気でやる医者が多い。絶対に治らないとわかっているがんの患者さんの内臓を大量に切り取るのもその一つ。僕は単なる感情だけでは喧嘩はしないのね。考えてみておかしい、不合理だということに対して言うだけ」

あるスーパーのファーストフード店の売り場責任者だった。毎日毎日、食べ物が大量に捨てられるのを見ているうちに、なんだかむなしくなってきた。

「たとえば、たこ焼きなら一人前売るために一〇人前ぐらい焼いているんですよ。三〇分以内に売れないものは片っ端から捨てていく。ゴミにするためにつくっているようなものなんです」